

熊本県立熊本西高等学校 令和元年度（2019年度）学校評価表

1 学校教育目標

「清・明・和」の教えを根幹とし、知・徳・体の調和の取れた文武両道の教育をとおして、世界的視野に立った日本人の育成を目指す。

2 本年度の重点目標

- | | | | |
|----------------|----------------------|-----------|-------------------|
| 1 学力の向上 | ・・・わかる授業、魅力ある授業への転換 | 2 生徒指導の徹底 | ・・・基本的生活習慣の確立 |
| 3 生徒理解 | ・・・個に応じた個を大切にした指導の徹底 | 4 進路目標実現 | ・・・行きたい進路目標（夢）の実現 |
| 5 体力の向上と逞しい精神力 | ・・・人間力を高める | | |

めざす生徒像「高い志を持ち夢実現に向かって輝く生徒」の実現のため、中学生が目標とする高校（西区学校教育の拠点校）となるようキャリア教育としての進路指導をとおして、進路実績の向上を図る。また、地域連携、小中高大連携を充実させ、生徒・保護者や地域の期待に応える。本校の特色や弱みが強みとなるよう学校改革を加速化し、より大勢の中学生が志望する学校となり、西高プライドを確立する。

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	開かれた学校づくり	広報活動の充実と学校行事の活用	<ul style="list-style-type: none"> 一日体験入学、西高公開、西高説明会の内容充実 広報誌の内容充実 学校HPの随時更新（更新回数100回以上） 学校行事開放による保護者や地域との交流 	<ul style="list-style-type: none"> 従来の取組内容にプラスワンの視点を取り入れた内容充実 担当部署、他の部との連携のもと、学校全体としての取組 生徒会主体をさらに進め、生徒が活躍する姿を見せる 各中学校への複数の担当が複数回訪問し、日常から関係深化 	B	<ul style="list-style-type: none"> 一日体験入学は、他校と日程が重なり参加者が減った。計画段階での情報収集と、ニーズの確認を要する。 新学科の説明会は2回行われ、有意義であった。 育西会報「西風」は年3回、西高新聞は年4回発行した。校内外に生徒の活躍を伝えることができた。 HPの更新回数は、142回を上回り、幅広い情報発信ができた。
	地域とつながる学校	小中高大の連携	<ul style="list-style-type: none"> 高大連携事業、西高アカデミックインターンシップ（NAIS）の推進 地域の学校としての情報発信と理解浸透 地域の英語教育の支援、部活動を活用した高校理解の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 熊本大、熊本県立大、熊本学園大、崇城大、熊本保健科学大との継続的事业 NAIS参加6大学・2専門学校との連携 西区・南区の各中学校との部活動交流・情報交換による連携強化 地域のこども園、小学校との連携をとおして、地域に浸透 	A	<ul style="list-style-type: none"> NAISを実施することで関係先との交流は確実に深まっている。また、一般社団法人SCBラボ、崇城大学の3者の間で地域社会や産業に貢献可能な人材育成を図ることを目的とした包括的連携協定を調印した。 各中学校との部活動交流がより活性化した。小学校の英語教育の支援等で、さらに本校の役割を高める。 西高太鼓部、ボランティア部を中心

					に地域各所で活動することができた。野球部の地域貢献活動も評価されている
学校改革	NEXT西高プロジェクト2の推進	<ul style="list-style-type: none"> ①「授業改善」の方策検討、研修、実践 A：西高版授業の確立 B：教科横断型授業の推進 C：観点別評価 ②「生徒募集」の充実 各プロジェクトチームによる学校改革の推進並びに中堅・若手教員の育成 	<ul style="list-style-type: none"> A：UD化、ICT活用、AL授業、授業デザイン B：新入試に対応できる力養成 C：3年後導入への検討・試行 体験入学、学校説明会、新規募集事業の検討 中学生（中学校）、塾等への効果的な広報活動 PTをとおして行うOJT 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善の取組が学力向上や意欲の喚起に繋がっているかの検証を進める必要がある。 自己の課題を気兼ねなく相談し、互いの課題を指摘し合うことができる意識の高い教師集団として実のある改善を実現する。 PTによる提言を増やす取組、OJTを推進する。
	働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 超過勤務時間の15%縮減 	<ul style="list-style-type: none"> 学校閉庁日の設定 部活動の練習日、活動日の月間計画公表 職員の意識変容 	A	<ul style="list-style-type: none"> 超過勤務時間は目標に近い数値を達成している。 部活動の月間計画・報告の適正運用を継続する。
学力向上	わかる授業、魅力ある授業への転換	<ul style="list-style-type: none"> 主体的、対話的で深い学びを意識した授業展開 [職員アンケート] 3.2/4.0 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善 PTによる提言の実践 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員アンケート「授業改善に取り組んでいる」は3.4と高い数値であったが、「主体的・対話的で深い学びを意識した授業」は3.1と、本年度の最重点目標で示された目標値を0.1ポイント下回った。学力向上につながる授業改善を継続する。
		<ul style="list-style-type: none"> 私は積極的に授業に参加している [生徒アンケート] 2.8/4.0 	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の研究授業旬間の設定 授業見学レポートの活用 PTによる提言の実践 	C	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの結果は2.6/4.0で本年度の最重点目標で示された目標値を0.2ポイント下回った。11月実施の授業評価アンケート「積極的に授業に参加している」79.4%との整合性等を検証する。
	計画的な学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決のための思考力、判断力、表現力等の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で生徒が主体的に考える授業研究に取り組み、生徒のやる気を引き出す 授業中の活動やレポート、作品、発表等、個に応じた適切な評価による意欲向上 	B	<ul style="list-style-type: none"> 上記「主体的、対話的で深い学びを意識した授業展開」が目標値を0.1ポイント下回った。更に改善に取り組む必要がある。新課程への移行も視野に入れ、PTを中心に適切な評価方法の開発を全教科で取り組む。
キャリア教育	ポートフォリオの充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のキャリアを着実に積み上げ、新入試制度に対応 	<ul style="list-style-type: none"> 新たなセルフチェックノート等によるポートフォリオの定着 各学年の進路研修会を充実し、全校 	C	<ul style="list-style-type: none"> セルフチェックノートについては、教師の粘り強い継続維持の工夫が必要である。

キャリア教育 (進路指導)				で情報を共有化		<ul style="list-style-type: none"> ・研修会の時間の確保の工夫が必要。 ・ポートフォリオについて、より効果的な方策を検討する。
	一人一人の進路目標達成	進路実績	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度を上回る進路実績を上げる。(進学100%決定・国公立大合格者20人・公務員指導の充実・就職100%決定) 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路相談、面談の充実 ・個別指導・面接指導・学力検討会の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・AO・推薦を活用した進路実績は、一定の評価ができる。 ・個々の学力を着実に向上する方法や工夫を考えなければならない。
		進路意識の涵養	<ul style="list-style-type: none"> ・夢や目標を与える取組の実施 ・西高アカデミックインターンシップ(N A I S)の実施 ・インターンシップの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本や熊本で活躍する人による講演会の実施 ・生徒の適性を考慮したN A I S・インターンシップの実施 ・幅広い受入先企業の開拓 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・N A I Sについて生徒の評価は非常に高い。日程・内容はより効果的な実施のために改善を進めるとともに、その後の学習への継続を図る。 ・N A I Sを受けた2年次のインターンシップの内容を充実させる。
生徒指導	交通安全	交通事故・マナー違反をなくす	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校での自転車事故防止 ・命の尊さを意識する交通指導実施 ・自転車用ヘルメットの着用 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全集会で危険箇所の理解と危険行為の撲滅を図る ・警察や地域の協力を仰ぎ、生徒の命を守る 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・変わらず、命を守る安全指導、マナー向上に努める。安全意識やマナーが良くなった生徒が増えたと感じるが、より徹底したい。 ・適宜、校外指導を取り入れる。
	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・時間厳守 ・爽やかなあいさつ ・正しい着こなし 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の遅刻者数減 ・あいさつ・時間厳守・服装 <p>[生徒アンケート] 3.2/4.0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による毎朝の遅刻指導、職員からの率先した挨拶励行 ・機を逃さない服装指導 ・生徒会による挨拶・交通指導等への指導・支援 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・服装や髪型で指導を受ける生徒は減ってきている。やや遅刻が増加しており、繰り返す傾向が強い。 ・生徒アンケート3.0と目標値を下回った。 ・職員の中で指導に差がある。
	能動的言動の育成	各行事における生徒の自主性の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体となった行事の企画・運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事等において可能な限り、生徒主体への移行を図る 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会・創立記念祭では、生徒会を中心に行うことができ、アンケートの結果からも良かったという意見が9割以上であった。
		高い志及び目標を持った高校生活実現の支援(フラスワンの指導)	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒が目標を持った、張りのある毎日を送る <p>[生徒アンケート] 3.0/4.0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夢や目標を与える講演会等の実施 ・全職員による様々な場面での声かけ・励まし等の支援 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートは2.8。 ・目標を持って充実した生活を送っている生徒は部活動生に多い。 ・講演会等の実施は、効果を図りながら検討する。
	美化、環境意識の高揚	掃除への意識高揚、環境ISOの取組推進	<ul style="list-style-type: none"> ・美化・省エネ <p>[生徒アンケート] 3.0/4.0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による掃除指導の徹底 ・細めな消灯・節電・節水 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート2.8。 ・掃除が週3日であることを踏まえ、掃除箇所や担当割の見直しを行う。 ・環境ISOについても全職員で継続

						的な指導を行う。
人権教育の推進	職員研修の充実	人権教育の基本的認識の確立とその共有	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の充実 ・特別支援教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権や命の問題についての知識や考察を深める講話の実施 ・合理的配慮、個別の教育支援計画の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で相互に学習し合う時間を取って研修を行った。各自の思いをまとめ、共有できる資料とし、次年度以降につながる研修を重ねていく。
	命を大切に する心を育む指導	自尊感情及び他者を尊重する態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・命を大切にする心の育成の充実 [生徒アンケート] 3.1/4.0 ・生徒および職員の心身のストレスの軽減 ・ボランティア活動等の体験活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業等で命の大切さについて学ぶ機会を各職員が2学期までに1回以上設定 ・リラクゼーション等の知識や技術の定期的な啓発と促進 ・生徒会による取組への指導・支援 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や人権教育講演会ははじめあらゆる場で命の大切さを伝える取組を行っている。 ・生徒及び職員の心のケア、関係機関との緊密な連携をさらに進めていく。
いじめの防止等	人権意識の育成	いじめをしない、許さない心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ解消率 100% ・生徒会による取組の充実 ・外部専門家の活用推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校いじめ防止基本方針に従い、未然防止及び早期対応の実施 ・本校独自の「こころのアンケート」の実施と活用 ・生徒会による取組への指導・支援 ・SC、SSW、医療機関等との積極的な連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート「いじめをしない、許さない」3.5と生徒の人権意識は高い。 ・生徒の変容に気づき迅速に対応する必要がある。挙がってきた事案については概ね対応することができた。 ・SC、SSWとの連携を進めることができしており、さらに促進する。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	地域・保護者・関係機関との連携	学校と地域の連携・協働のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事（体育大会・創立記念祭・チャレンジウオーク等）をとおした交流事業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や関係行政機関、保護者との連携 ・近隣小・中学校、地域との積極的交流 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の積極的な参加が見られたが、内容の事前周知が不足していた。 ・限定が困難な面はあるが、より積極的に地域を巻き込む工夫が必要である。
		（総合型）学校運営協議会の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・（総合型）学校運営協議会による学校評価や本校取組の検証並びに地域防災システムの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を年3回実施（内1回は防災型に特化） ・地域と一体となった防災システム及び災害時連携体制の維持 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を適正に実施することができた。いただいた御指摘を学校運営に反映する。 ・地域、行政と防災避難訓練を実施し、防災体制強化を図ることができた。
特色ある教育	理数科の充実	研究活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携による実習の着実な実施 ・発表会、コンテストでの入賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学との事前協議の充実 ・科学イベントへの積極参加 ・中間発表の充実による意識向上 ・課題研究の進め方の改善や講座内容の調整 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・臨海実習については、本校職員が講座の主体を担う大きな変更が行われたが、スムーズに実施できた。 ・科学イベントへの積極的な参加や中間発表の実施で、意識向上できたが、課題研究の深化には課題がある。

	志望者の増加	・前期選抜、後期選抜の志望者増	・理数科体験プログラムの実施 ・学校説明会でのPR実施 ・小中高連携活動の推進	B	・サイエンス情報科の説明会の実施やチラシの作成など、広報活動は推進できた。
体育コースの充実	専攻授業の充実	・専攻6種目の競技実績の向上（全国入賞数の増加）	・専門知識並びに技能の習得を目的とした講習会の実施 ・体育コース集会（1回/月）において報告会実施	A	・専攻5種目がインターハイ出場するなど競技実績の向上が顕著であった。 ・栄養に関する講習会を実施し、専門的知識・技能を習得することができた。
	志願者の増加	・県内中学校への広報活動拡充	・PR用ポスターやチラシ、DVDの作成 ・近隣中学校との交流	B	・部活動交流会や体験入学をとおして中学生の練習参加を促し、生徒間の交流及び広報活動を推進した。

4 学校関係者評価

地域住民並びに行政、教育関係、企業や同窓生、保護者の立場から、「教育目標」「学校経営」「生徒指導」「地域連携」「特色ある教育」に加え、「学校評価」の方法や結果等について幅広く御意見をいただいた。本年度から始めた西高アカデミックインターンシップ（NAIS）については特に関心が高く、内容や生徒の高評価について質問が出た。加えて、理数科の学科改編やSSHの申請、超過勤務時間の削減等多くのことから学校改革を推進していることに御賛同をいただいた。また、昨春の女子柔道52kg級の日本一をはじめとした普通科体育コースの専攻6種目の活躍はもちろん、各運動部の活動内容の充実に加え化学や書道、競技かるた等文化系部活動の活性化やeスポーツ部の発足によってますます本校が目まぐるしく注目されていることで学校の魅力化が進み、生徒募集や学力向上につながることを期待していただいている。

今年度、特命事項として取り組んでいる授業改善の取組への期待も大きく、次年度以降の成果に期待する声も上がった。また、いじめ防止の項目で生徒の意識が高いことも話題となった。

5 総合評価

- (1) 学校教育目標 : 体育、理数科、NAIS・インターンシップ、ボランティア活動等の生徒活動において幅広く活性化が見られた。また、海外派遣研修、台湾修学旅行の実現によって世界的視野に立った生徒育成を推進するための基盤を整備することができた。
- (2) 重点目標 : 体育コース、理数科を持つ普通高校として中学生が目標とする高校（西区学校教育の拠点校）としての魅力を明確にするための取組を重視した。特に重点目標にあげた5点を推進できる体制として、中堅教師のOJTを兼ねたNEXT西高プロジェクトを継続的に稼働させた。
- (3) 自己評価総括表 : プロジェクトチームの特命事項「生徒募集」、「授業改善」（A西高版授業の確立、B教科横断型授業の推進、C観点別評価）については成果とともに課題も明確化してきており、継続して取り組む必要がある。特に授業改善については、職員の意識は高いが、生徒の学習意欲や学力向上に結び付いていない部分があり、A西高版授業の確立が急務である。昨年度着手した日課の変更やゼミの見直しによる生徒と向き合う時間の確保、月間計画・報告の明示による部活動練習時間の明確化、超過勤務時間の削減は継続して成果を上げている。西高アカデミックインターンシップ（NAIS）をさらに発展させるための関係各機関との連携、海外研修並びに修学旅行の充実、地域と一体化した防災計画、サイエンス情報科としての研究活動や企業や研究機関とのさらなる連携等、取り組むべき内容は多いが着実に前進している。生徒募集面では、前期（特色）選抜では、学科改編の成果を感じたが、後期（一般）選抜の出願状況からは大きな課題を感じざるを得ない。地域の状況や教育行政の動きを精査すると共に、特に出願数が減少した近隣中学校とは連携を密にすることでさらに信頼関係を高めたい。

6 次年度への課題・改善方策

- (1) サイエンス情報科を中心に最先端情報技術等の学習内容を充実させることで、学科改編を核とした学校全体の魅力化を図る。
- (2) 西高アカデミックインターンシップ・インターンシップを中心とした地域と連携したキャリア教育の充実を図る。
- (3) 世界的視野に立った日本人の育成のため、海外修学旅行や海外派遣研修をさらに充実させ、生徒の成長を促す。
- (4) 授業の充実と学びの基礎診断テストを中心に据え、ゼミや模擬試験の個に応じた活用を推進することで学力向上の具体策を打ち出す。
- (5) 学校行事の企画・運営、挨拶の励行、登下校マナーの確立など生徒の主体的な活動を推奨することで生活面の充実を図る。
- (6) 学校改革・校務棚卸しを校務分掌・担任団の再構成等の目に見える改革につなげ、さらなる業務効率化と教職員の負担軽減をすすめる。